

編集後記

『哲学の探求』第40号を無事刊行することができ、今はほっと胸をなでおろしています。前号と比べると執筆者も倍以上となり、大変読み応えのあるものとなったと言えるでしょう。収録された論文が今後の議論を活性化させるきっかけとなればなりよりの喜びです。しかし当然のことながら、原稿数の増加のため、編集作業には予想以上の苦戦を強いられ、刊行も当初の予定から延期せざるをありませんでした。執筆者や世話人の方々には私の作業の遅さのためにご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

いくつか個人的なことを書かせていただきます。今号には2011年度のレクチャーを担当された岡本賢吾先生の原稿が掲載されました。一年越しの原稿がようやく掲載され、前任の平賀直哉氏からの引継ぎを果たすことができたことを大変嬉しく思います。また元・世話人の荒磯敏文、山田竹志両氏には、世話人の仕事や編集作業についての相談に乗っていただきました。お二人の助言が励みとなり、またこの仕事を最後まで進める力となったことは言うまでもありません。

最後に、お忙しい中本号にご寄稿くださり、編集過程にも協力していただいた執筆者の皆さまには心からお礼を申し上げます。

(編集 木本 周平)